



企画展

ポケモン化石博物館

POKÉMON FOSSIL MUSEUM

人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場するふしぎな生き物「ポケモン」にはカセキから復元されるポケモン（以下「カセキポケモン」と呼ぶ）がいくつか知られています。

企画展「ポケモン化石博物館」（会期：2025年10月4日（土）～12月28日（日））は、「カセキポケモン」と私たちの世界で見つかる「化石・古生物」を見比べて、似ているところや異なっているところを発見し、古生物学について楽しく学んでいただくものです。

（地学担当：小布施彰太）

絵画を味わう

ほうらいさん —蓬萊山に込めた思い—

松浦 靖也

はじめに

古い日本の絵画を鑑賞するとき、「何を表しているのだろう」、「どんな意味があるのだろう」と感じることはないでしょうか。そうした疑問を解決するには、画題（絵画のテーマ）に関する理解が必要となります。

ここでは、蓬萊山という画題を紹介します。あまりなじみがないかもしれませんが、先人の思いや考えといった価値観がよく表れています。絵画の奥深さを知るきっかけになればと思います。

「蓬萊山図」をながめる

当館が所蔵する「蓬萊山図」（図1）は、江戸時代に徳島藩の絵師として活躍した渡辺広輝（1778～1838）の作品です。絹地に墨でかたちを描き、絵の具で鮮やかに色を施しています。

絵の具は、細かくすり潰した貝殻や鉱物を原料とする顔料と、煮出した植物の汁などを原料とする染料が使用されています。

それでは、何が描かれているのかじっくり観察してみましょう。海上の波間に小さな島があり、その中央には大きな岩山があります。手前の大きな松の付近では、白髪の尉（おじいさん）と姥（おばあさん）が日の出に向かって拝んでいます（図2）。岩山には青々とした葉をつけた松や竹が根を下ろし、紅白の梅が花を咲かせます（図3）。上空では鶴が翼を広げて飛んでいます。地上では鶴の親子が羽を休め（図4）、亀が地面を這っています（図5）。木陰には扇形のきのこや赤い実を付けた植物が生えています（図6）。

どこか不思議な風景ですが、この島全体を蓬萊山といいます。



図1 渡辺広輝筆「蓬萊山図」（当館蔵）

蓬莱山とは何か

中国前漢の歴史家である司馬遷（紀元前135年？～紀元前86年頃）が編纂した『史記』によれば、蓬莱山は東の海上にあり、超人的な能力をもつ仙人が住む場所とされます。歴代の王たちは家来を遣わして何度も蓬莱山への上陸を試みたものの、風にあおられ、上陸するのが困難であったといえます。しかし、ついに上陸に成功した者が現れました。その者がいうには、そこには不死の薬があり、真っ白な鳥や獣が生息し、金銀で装飾された宮殿があったそうです。

古代中国では、仙人の存在を信じ、不老長寿を追求する神仙思想がありました。蓬莱山はそうした思想のなかで生まれた伝説であり、どこかにあるかもしれない理想郷として日本でも受け入れられました。

吉祥のシンボル

日本で定着した蓬莱山のイメージにはいくつかの種類があります。今回紹介した「蓬莱山図」は、とりわけ縁起のよいモチーフを組み合わせ、めで

たさが強調されています。具体的にどのような意味があるのか、個別に見ていきましょう。

尉と姥は能の謡曲「高砂」を表します。ふたりは松の名所である住吉（今の大阪市住吉区）と高砂（今の兵庫県高砂市）のそれぞれの松の精が人となって現れた姿であり、夫婦円満や長寿、平和な世に対する祝福などの意味があります。

松、竹、梅は「歳寒三友」と称されます。厳しい冬の寒さに耐えて葉あるいは花をつける様子は、不老長寿や子孫繁栄などの象徴となりました。また、強くしなやかなたたずまいは、人のあり方のよき手本としても尊ばれました。

鶴と亀も長寿の象徴です。鶴は一千年、亀は一万年を生きるとされ、仙人が住む蓬莱山にも生息すると考えられていました。また、鶴が親子で描かれるのは子孫繁栄を意味しています。

きのこは靈芝（マンネンタケ）です。古くは不老長寿の薬として珍重され、今でも漢方薬として知られます。また、赤い実をつけた植物は山橘（ヤブコウジ）です。冬でも葉を枯らさず、鮮やかな赤色の実をつける様子から、主に正月飾りとして好まれました。

このように、蓬莱山は、不老長寿や子孫繁栄といった意味をもつ、縁起のよい吉祥のシンボルであったのです。

おわりに

蓬莱山という画題には、平和や幸福を願う人々の切実な思いがよく表れています。絵画だけではなく、鏡や着物など日用品の文様としても広く用いられていますので、探してみると面白いかもしれません。（美術工芸担当）



図2 尉と姥



図3 松竹梅



図4 鶴の親子



図5 亀



図6 きのこと赤い実をつけた植物



企画展

ポケモン化石博物館

POKÉMON FOSSIL MUSEUM



会期：2025年10月4日（土）～12月28日（日）

休館日：毎週月曜日（10/13、11/3、11/24を除く）、10/14（火）、11/4（火）、11/25（火）

会場：徳島県立博物館 企画展示室・多目的活動室

観覧料：一般 1,000 (800) 円、大学生・高校生 600 (480) 円、中学生・小学生 500 (400) 円、
満65歳以上 800 円、未就学児無料

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳、特定疾患医療者
受給者証、特定医療費（指定難病）受給者証、小児慢性疾患医療受給者証の所持者とその介助者1名は無料

- 主催 徳島県立博物館、国立科学博物館
- 企画協力／ポケモン展示品制作 株式会社ポケモン
- 協力 三笠市立博物館、群馬県立自然史博物館、
豊橋市自然史博物館、島根県立三瓶自然館

ポイント②



「カセキポケモン」の
実物大骨格想像模型が登場！
ポケモンの実物大骨格想像模型と、
古生物の標本を比べてみよう！



ポイント①



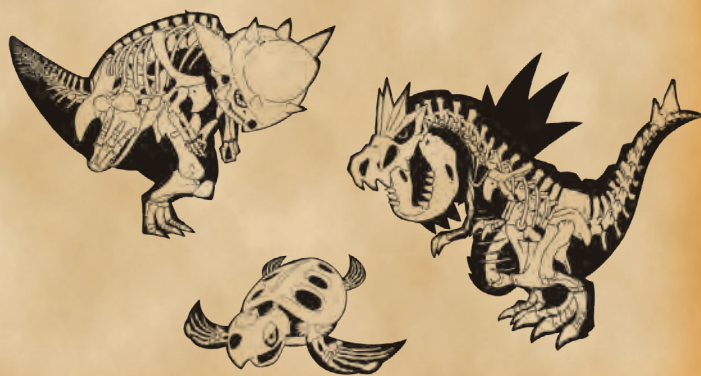
ポケモンと古生物のイラストから、
似ているところ、違うところを探してみよう！



ポイント③



ポケモンと古生物の骨格を比べてみよう！
カセキから復元されるポケモンの骨格は
どうなっているのかな？



記念講演会

「ポケモン化石博物館」で学ぶ最新古生物学

日時：2025年10月4日（土）13:30～15:00

場所：文化の森イベントホール（1階）

講師：相場 大佑 氏

（深田地質研究所主査研究員・ポケモン化石博物館総合監修）

※参加無料、申込方法は8ページ参照

き づ が わ 京都府木津川のアユモドキ標本

「アユ」という名前の^{たんすいぎょ}淡水魚は多くの方が知っていると思います。では、「アユモドキ」という淡水魚をご存じでしょうか。アユモドキは、「アユ」がその名に入っていますが、アユの仲間ではなく、ドジョウの仲間です。この魚は日本のみに分布し、さらに、現在では琵琶湖・淀川水系（京都府）と吉井川水系（岡山県）、旭川水系（岡山県）といった限られた地域でのみ生息しています。かつては、滋賀県や大阪府などにも生息していましたが、本種の生息地である浅い湿地帯が干拓や河川改修、宅地化などで激減し、多くの場所で姿を消してしまいました。本種は現在、日本でもっとも絶滅の危機にさらされている淡水魚のひとつで、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 IA 類に選定されており、国の天然記念物にも指定されています。

当館には、1961年に京都府木津川で採集されたアユモドキの標本が収蔵されています（図1）。

この標本は、愛媛大学名誉教授の^{みずの のぶひこ}水野信彦先生が収集したものです。水野先生は、淡水魚類を対象とした研究で多くの功績を残され、それらの研究の中で収集された6万個体以上の魚類標本を、愛媛大学をご退職される際に当館に寄贈いただきました。このアユモドキの標本は、当館が受け入れた水野先生のコレクションの中にも含まれていたものです。

現在、木津川のアユモドキは絶滅してしまい、現地でその姿を見ることはできません。しかし、当館に残る木津川のアユモドキの標本は、かつて、確かにそこに本種が生息していたという証拠となります。今、私たちが当たり前に見ることのできる動植物も、50年後には絶滅しているかもしれません。標本を収集し、保存していくことで、現在の自然環境を表す確かな証拠として、50年後、100年後の人たちに伝えることができるのです。（動物担当：井藤大樹）



図1 京都府木津川産のアユモドキ標本

三好ジオパーク



三好ジオパーク
Miyoshi Geopark

ジオパークとは、「**地球の過去を知り、未来を
考えて活動する場所**」です。それぞれの場所で、地域の地質遺産を保護し、研究に活用するとともに、教育や観光に役立てて持続可能な地域社会の発展を目指す活動が行われています。国際的な取り組みで、日本では日本ジオパーク委員会が認定や審査を行っています。国内に日本ジオパークが47地域あり、そのうち10地域がユネスコ世界ジオパークです（2025年6月1日現在）。

三好ジオパークは、2024年10月に徳島県で初めて日本ジオパークとして認定されました。徳島県西端の三好市と東みよし町全域が対象です。そのテーマは、「**動く大地が創った、空へつづく集落と吉野川の流れ**」です。

三好ジオパークは、^{つるぎさん}剣山・^{てんくづか}天狗塚・^{みうね}三嶺エリア、^{いやは}祖谷エリア、^{おおほけこぼけ}大歩危小歩危・^{いやけい}祖谷溪エリア、^{いかわ}池田エリア、^{いかわ}井川・^み東みよし町エリア、^{みの}三野エリアの6つのエリアからなっています。これを地質の面から見ると、南から^{ちちぶたい}秩父帯、^{さんばがわたい}三波川帯、^{いずみそうぐん}和泉層群（^{りょうけたい}領家帯）からなっており、三波川帯と和泉層群との境界が中央構造線です。

三好ジオパークは、「三好ジオパーク情報発信

室とこじお」（大歩危峡まんなか地下1階）の運営、案内看板類などの設置、学校での授業、ジオガイドの育成など様々な取り組みを行っています。具体的には、「三好ジオパーク公式Webサイト」から、詳しい見どころや活動について、いろいろな情報を得ることができます。

ここでは三野エリア、井川・東みよしエリアの中央構造線の^{うと}露頭（ジオサイト）を紹介しましょう。

^{たちの}太刀野の中央構造線（図1）は、三好市^{みのちやう}三野町太刀野の「道の駅三野」の駐車場南「中央構造線橋」の橋の下にみられる中央構造線の^{はさいたい}破碎帯で、県指定天然記念物です。以前は泥が厚く覆っていて全く見えませんでしたが、近年は地元の方や三好ジオパーク関係者による手入れが行われており、以前よりだいぶ見やすくなっています。

^{かも}加茂の中央構造線露頭（図2）は、東みよし町の吉野川南岸、加茂の河原にある露頭です。黒色の^{りよくかいしよく}和泉層群と緑灰色の三波川結晶片岩の破碎岩が直接接しています。吉野川の河原の石が一時的にはぎ取られて現れた露頭で、行けば必ず見られるとは限りません。この露頭は、当館の常設展示室でも解説しています。

（地学担当：中尾賢一）



図1 太刀野の中央構造線（三野エリア）



図2 加茂の中央構造線露頭（井川・東みよし町エリア）

海外でも藍染めが行われている 地域はありますか？



図1 中国周辺地図
着色した場所が貴州省です。

徳島県は藍染めで知られていますが、藍染めが行われている地域は海外にもあります。藍染めで使う藍（染料）の原料は、インディゴ（青色の色素）のもとになるインディカンを含む植物であり、徳島県などで栽培されている^{たてあひ}蓼藍（タデ科）はその一つです。そして海外においても、各地の風土にあった植物から作った藍で、藍染めが行われてきました。

そうした地域の一例として、中華人民共和国（以下、中国）の^{きしゅうしやう}貴州省（図1）があります。現在の中国では、人口の大半を占める漢族の他に、55の少数民族が政府によって公認されています。貴

州省は少数民族の人々が多く暮らす地域の一つであり、ミャオ族やトン族の人々による藍染めが知られています。現地では藍の原料として、蓼藍のほかに、^{りゅうきゅうあひ}琉球藍（キツネノマゴ科）を使うことが多いそうです。染め布を作る技法も、絞り染め（染色前に布を糸でくくるなどして、紋様を染め抜く）、ろうけつ染め（染色前の布に、溶かした口ウで模様を描き、染め抜きをする）、つや出し（染色後の布を木槌で叩くなどして、つやを出す）など、様々なものがあります。

もともとミャオ族やトン族の人々が作る藍染め布は自家用でしたが、1980年代に少数民族地域の観光化が始まった後は、観光客などに向けた商品として流通するようにもなりました。貴州省においても、観光地や^{とん や かい}問屋街に行くと、藍染め布が売られています（図2・3）。

（歴史担当：坂東 泰）

【参考文献】

- 奥村 忍『中国手仕事紀行：雲南省・貴州省』増補版、青幻舎、2024年。
- 国立民族学博物館編『深奥的中国：少数民族の暮らしと工芸』東方出版、2008年。
- 鈴木正崇『ミャオ族の歴史と文化の動態：中国南部山地民の想像力の変容』風響社、2012年。
- 徳島県立博物館編『藍のよそおい』徳島県立博物館、2000年。
- 徳島県立博物館編『藍染めの表象』徳島県立博物館、2010年。



図2 貴州省の凱里市にある問屋街（2025年7月、筆者撮影）



図3 凱里市の問屋街で売られていた藍染め布（筆者蔵）

シリーズ名	行 事 名	実施日	実施時間	申込	対 象 (定員)	備 考
野外自然かんさつ	文化の森クモかんさつ会(秋編)★	10月26日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(15)	
	花巡り！植物かんさつハイキング11月～植物の冬支度を見に行こう！～	11月16日(日)	10:30~17:00	要	小学生以上(20)	弁当・水筒持参 牟岐町 現地集合
	文化の森で夜のこん虫かんさつ(秋編)	11月16日(日)	18:00~19:30	要	小学生以上(10)	
	初めての植物かんさつ(冬編)	12月14日(日)	13:30~15:30	不要	小学生以上(20)	同日開催 「ゼロから始める植物学」
生きものしらべ隊	落ち葉の下の生きものをしらべよう	11月 2日(日)	10:00~12:00	要	小学生以上(15)	
たのしい地学体験教室	恐竜化石をさがそう！ 12月	12月21日(日)	13:30~15:30	要	小学生以上(20)	恐竜やカメなど脊椎動物化石が発見された場合は、博物館へ寄贈になります。
歴 史 散 歩	たんけん！若杉山辰砂採掘遺跡	10月19日(日)	13:30~16:00	要	小学生以上(15)	阿南市水井町 現地集合
	池田を歩こう	11月 9日(日)	13:00~16:00	要	小学生以上(20)	三好市池田町 現地集合
ワクワクむかし体験	焼き物をつくろう①(成形)	11月30日(日)	13:30~16:00	要	小学生以上(16)	①②セットで11月18日(火)までに申し込み 材料費300円(高校生以下は無料)を11月30日(日)に徴収
	焼き物をつくろう②(焼成)	1月11日(日)	9:30~17:00			
ミュージアムトーク	中世の荘園をさぐる	10月26日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	
	徳島藩と絵師	11月16日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	
	沼島と徳島藩	12月 7日(日)	13:30~15:00	不要	小学生以上(50)	
	ゼロから始める植物学 ー植物の名前編ー	12月14日(日)	10:30~12:00	不要	小学生以上(20)	同日開催 「初めての植物かんさつ」
企画展関連行事	記念講演会「ポケモン化石博物館」で学ぶ最新古生物学	10月 4日(土)	13:30~15:00	要	小学生以上(100)	文化の森イベントホール 空き状況によっては当日参加も可能
コレクションセクション 関 連 行 事	歴史・文化コレクション 「米とくらし」展示解説	10月12日(日)	13:30~14:00	不要	小学生以上	常設展観覧料必要
		12月21日(日)				
博物館スペシャル	文化の森秋祭り	11月3日(月・祝)	9:30~16:00	不要	—	祝日無料

●★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。

○小学生が参加する場合は保護者同伴です。

◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事の
お申し込みについて開催予定日の**1か月前から12日前必着**でお申し込みください。

参加希望者が定員を超過する場合は抽選とし、結果は全員にお知らせします。また、行事の詳細は、当選者にご案内します。原則として、参加費は無料ですが、材料費をいただくことがあります。

●往復はがきでの
お申し込み

1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。右図のように記入し、お申し込みください。

往復はがきの記入例			
< 往信の表面 >	< 返信の裏面 >	< 返信の表面 >	< 往信の裏面 >
85 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	85 〒〇〇〇〇〇〇〇 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	85 〒〇〇〇〇〇〇〇 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	85 〒〇〇〇〇〇〇〇 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名

何も書かないでください

●「行事申込フォーム」でのお申し込み

スマートフォン、タブレット等でQRコードを読み込み、アクセスしてください。お申し込み後に受付メールが自動返信されます。返信がない場合は、電話(088-668-3636)または、FAX(088-668-7197)でお問い合わせください。

行事申込フォーム



※提供いただいた個人情報は、お申し込みのあった行事についてのみ使用します。

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源(もの・情報・人)を、学校教育の場で有効に活用していただきたいと思います。

- 遠足
- 博物館資料の貸し出し
- 館内授業(博物館で)
- 教材研究のお手伝い
- 出前授業(学校で)

・学習内容に関する質問や実験・観察の方法など、何でもお気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸の各専門分野の学芸員がご相談に応じます。お気軽にお電話ください。



火おこし(出前授業・館内授業)

特典がいっぱい!! 徳島県立博物館友の会

博物館友の会は、年間を通してさまざまな体験活動を行い、自然や歴史・文化について、楽しく学んでいます。

個人でも、ご家族でも、ご入会いただけます。みなさんも参加してみませんか。

- 年会費
 - ・個人会員2,000円
 - ・家族会員3,000円
 (10月以降にご入会の場合、会費はそれぞれ半額となります。)

■会員の特典

- ・友の会行事に参加できます。
- ・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入することができます。
- ・催し物案内や博物館ニュース、会報などが、毎月お手元に届きます。



詳しくは、友の会事務局まで(電話088-668-3636)

お問い合わせは、徳島県立博物館まで(電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197)